

陽の里

発行 平成19年4月1日
社会福祉法人 新生会
岐阜ケアセンター
サンビレッジ

No.95

テーマ 岐阜シティタワー43 医療・福祉ゾーン



▲ヴィラアンキー／前の大津谷から油田山を望む

岐阜県健康福祉部高齢福祉課長 真野 芳宏

新年度(19年度)の事業展開

昨年四月、新しい試みが数多く盛り込まれた介護保険法の大改正があり、何とかスタートを切ってから早いもので一年が過ぎました。世界でも未体験の「超高齢社会」に備え、十年先、二十年先を見据えた未来志向の発想で大改革を進めていますが、その理念、主旨が現場まで浸透せず、十分理解されないまま適切な対応がなされていないなど、反省する面もありました。このため、新年度においても、改革の主要な柱である①予防重視システムの転換、②地域包括支援センターの機能強化、③地域密着型サービスの普及などについて、役割が大きくなつた市町村と連携しながら、しっかりとサポートしていくたいと考えています。また、医療制度改革に伴う療養病床の再編で、退院を余儀なくされる入院患者の受け皿作りがスムーズに進むよう、今秋までに「地域ケア整備構想」を策定し、高齢患者、家族の方々の不安の解消に努めていきます。

次に、県の新年度重点事業としては、単身高齢者などの見守りを推進するためのネットワークの形成、増加し続ける認知症高齢者の初期段階での対応の充実、高齢者への虐待防止対策の推進、災害時に援護が必要な高齢者の支援体制の整備などの取組みを実施いたします。

介護保険は、老後の安心した暮らしを支える制度として普及・定着し、評価もされてきており、これをして日々の代まで社会の重要なインフラストラクチャとして持続させていかなければなりません。制度改正の適切かつ円滑な実施に向け、一層の理解と協力をお願いします。

「岐阜シティタワー43 医療・福祉ゾーン2」 サンサンタウン

社会福祉法人 新生会 理事長 石原 美智子

岐阜駅前にいつの間にか背の高いビルが「ヨツキリ」と現れました。駅前開発は岐阜市の長年の夢であつたと聞きました。このビルは住宅用のもので、1階2階は店舗、3階が医療・福祉ゾーン、4階は岐阜放送が入ります。

私は重度の高齢者介護を専門としてきましたので、当時は、駅前という立地条件の中では重度の高齢者介護は関係がないと考えていました。その上、福祉といつ分野の仕事は駅前の高い賃料には向きません。当然、プロボーザルに参加する予定はありませんでした。しかし、時代の流れは重度になつから移り住むというのではなく、また元気なうちに将来を見越して安心を求めて移り住みそこで人生的のターミナルまでを過ごす、という方向に変わりつありました。そのためのモデル的な事業としては

やり甲斐のあることと思いがえし、プロボーザルに参加し、選ばれることになりました。

(1) 医療と生活支援の連携

(2) 可能な限り専門性の高い質

(3) 人生すべての視点（保育から

(4) 活力ある環境のための人の流れを創る

(5) 心身の健康と安心の追求

これらのこと意識して、現在は配置予定のスタッフと共に先ず「夢」を語り合い、それに添つて全員参加の下、10月のグランドオープニングに向けて細かい計画の積み上げをしていきます。

シティタワー43の3階 安心の支援システム「ヨコア」をサンサンタウンと仮称呼んでいますが、そこには診療所、歯科、調剤薬局、

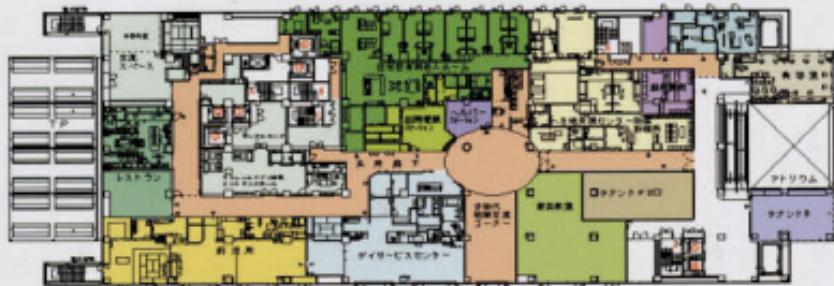
イサービスセンター、託児所、レストラン、美容院、音楽教室、多世代地域交流広場、多目的室、交流スペース、住宅型有料法人ホームなどがあります。

生活支援の専門性は、「自立と尊厳」「個別性と連携」を基本とします。このことが実践されると「自己中の世界とは異なった暖かい豊かな環境が出現します。特別養護老人ホーム・サンビレッジ新生苑を訪れるボランティアの女性がある日、言いました。「此廻にいると私がいい人にならう気がするわ」と。自分のいい部分が出る、と言

うのです。

若い職員に子育ての極意を伝えてくれるお年寄りがいます。認知症の高齢者が閉じこもりの若者の心を開いてくれます。現場の中に尊厳とは何かを気づかせてくれる職員の姿があります。子供達の日々、自立していく姿を見ることが出来ます。

本当にかなう?と思う方、ぜひ、サンサンタウンへ来てみて下さい。



岐阜シティタワー43三階平面図

新たに19年度から利用できるサービスが増えました

「療養通所介護」がスタート

訪問看護管理者 本間由佳里

「デイサービス」に新しい形ができるます。医療「一」と介護「一」を併せ持つ、在宅中重度者等の通所サービス「療養通所介護」を、この六月より始めます。相当する訪問看護管理者は、「初めて担当した方が、気管切開の方でした。親身に介護しておられる家族の介護負担は大きく体養がしれないと言われる家族に、訪問看護だけでは十分なサポートは出来ないと限界を感じました」と振り返ります。

あれから五年以上経過し、サンビレッジ新生苑の「デイサービス」では、中重度の利用受入を積極的に行ってきました。しかし医療依存度の高い方の受入に限界を感じ、先日名古屋にあります「療養通所介護さくら」への研修に行きました。しっかりと介護・医療体制の中、人工呼吸器をつけておられる方等、医療依存度の高い重度の方が安心して利用されていました。



サンビレッジの中庭

身体的重度者の「デイサービス」は、介護者の負担軽減や安全に入浴できることが、一番の利用目的のように思われがらですが、ケアプランに添って呼吸リハビリや下肢筋力アップ、社会性の向上等、前向きなものを提供したいと思っています。

自宅同様の静かな環境や休養できるスペース、個別のリハビリやレクリエーションメニューを準備してお待ちしています。

名 称 (場所)	サー ビス名	一 回 メ モ
もやいの家庭代 (池田町藤代)	地域密着型 小規模多機能	一、摺り伝域の要支援以上の住民の方を対象 二、適いを主として施設も利用できます 利用者自身の生活リズムに合わせた利用ができます。
サンビレッジ新生苑 (池田町本郷)	デイサービスセンター ナイトサービス	一、16時30分～19時30分の利用が可能 夕食を召上つて頂いてから帰宅します 二、夜間の備え物を中心に楽しむためのサービスを開始します

【その他 新設サービスの紹介】

木もれびの家 (池田町本郷)	グループホーム	交 流 ホ ー ム
サンビレッジ新生苑 (池田町本郷) 10月オープン	岐阜シティタワー43 サンビレッジ岐阜	24 時 訪 問 介 護 (メディカル) （開保育）

なかのさん家(ち) (池田町本郷)	認知症 テイサー ビス	認知症 ショートステイ
一、医療を利用したディセンター 二、慶祝日を設定し少人数で楽しめます 三、利用者四士の和食意識が自然に高まります	一、個室を用意致しました 二、ホテル化むじにご利用ください	一、医療と福祉を連携かつ、密接に連携し 「その人らしい」をサポートします 二、赤ちゃんからお年寄りまでの多世代交流 が図れます 三、安心あの生活を「お届けいたします」

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

「学校の本年度の展開・方針」

事務局長 村 山 洋 志

サンビレッジ国際医療福祉専門学校が開設されてから10年が経とうとしています。本校はサンビレッジの理念である「他人のいたみを自分のことにして感ずる感性と人が等しくしてゆく」との福祉観を基本として、質の高い介護・医療のノウハウの修得をサポートしてきましたが、この数年本校における教育内容や学生達の取組みが、「これまでになく充実・活性化しています。そのため、昨年開催された大震十万石祭りへの参画をはじめ、歴史や禁煙などをテーマにした教員・学生を交えたサロモン開催、最近では地域での積極的なゴミ拾い活動なども見受けられるようになりました。このような自立的・自発的な活動を地域に溶け込みながら学校全体として広げていきたいと考えています。本年度においては、学生の本分としての知識や技能の修得はもとより、社会に出た時に範となる行動ができるような基本的な生活習慣や考え方を身に付けさせるとともに、学生の自立心を養うことを目標として邁進していくたいと考えています。また、「のような心と技能を学べる本校の良さを沢山の方々にお伝えするとともに、志のある多くの方々に学んで頂き、その力を社会に還元してもらい、地域や人々の幸せに結び付ける」ことができたらと心より願っています。

▲国際医療福祉専門学校 卒業式

トピックス



ハートボイルド・イサムさん

デイサービスに通われる、難人気質の伊藤さん。いつも兎の監さんのためにテープルを作つて下さいます。ある日、最近木工作業のお仲間が少なく思案にかかる職員に一言。「どんな事でも最初は一人の熱意から、迷ついていても始まらない!今は自分一人でも、まずは何でもやってみよう!」いくつになつてもハートが沸き立つ、男も惚れる男です。熱い想いに支えられ、サンビレッジはこれからも監さんの「やりたい事」を応援します!



ひじいわな子 石期一会、石川さん

サンビレッジ新生児、ひまわりホールの西側にて、ここに見えるのは石が好きなる石川さん。時折窓の中庭へ、要用のマジックハンドを持ち、電動車椅子に乗つて探しに行かれます。「同じ石はひとつもないよ、どれもみんな違うんだ。人間たつてそんだけ違う?」ある日ある時ある場所で、出会いを求める口マンチスト、石川さんのコレクションは続きます。

今回はサンビレッジで過ごされる男性利用者さんにスポットを当てました。サンビレッジには若元気な女性陣に負けず、素敵な男性方が大勢みえるのです。只今皆様の地域の「若元気さん」も募集中! 第一報下されば取材に駆けつけます。

●情報や写真等の宛先/池田町本郷1501 TEL0585-45-5545 機関訪問まで

事例

近所の見守りは 要らぬお節介か？

秘蔵版

本編に、勝るとも劣らない貴重な事例の秘蔵版を紹介します。

尊厳を支えるケアを めざして

50

中高年



運営する「尊厳を支えるケア」をめざす中高齢者支援の
トータルプランナーの20周年の実践の結果を示す「尊厳を支えるケア」を
めざして同志、読むべし。

中高年版

定価 本体2,000円(税別)

解説

人柄のよいAさんが認知症になり、カーテンをしめきり、電気やストーブのつけ方をわからない状況で、じつとしないのを見守る人は見てられない。このままひいのだとつかるのを近所の人は見てられない。週1回だった「ティサービス」を4回に増やす、「配食サービス」も毎日2回に増やす。近所の方に見守りをお願いしながら様子を見ていた。しかし食事を食べても「ご飯を食べてないのに、体が痛ってしまった」「ティサービスは休みます」と度々訴えるようになった。次第に進行していく認知症の症状に周囲からの不安な声がケアマネジャーに届くものになってしまった。

老夫婦世帯であったAさんは、「寝たきりの夫を在宅で介護」夫を看取った後に物忘れが始まった。地域の中で信頼の厚かったAさんに、当然のように近所の方は見守りや、声かけと「ほんの世話を」なっていた想返しにと地域の協力体制ができてしまい、地域を巻き込んだサービスラインができた。進行していく認知症の状態に、地域住民の不安が大きくな

りはじめると聞こえたケアカンファレンスであったが、家族からは「冷蔵庫や炊飯器の中まで見て欲しくない。食べ物は届けている。本人は元気だから出しこそして欲しくない」「ほんとうにやらないたら」「母はそんなに深くていません」と聞かれ、ほとんど歩み寄れない展開となつた。

たなければ仕方ない」との声。朝の食事はむづかしかった話題の席、地域の方の「炊飯器の中にカレーカツのパックがあった」との言葉に家族が「食べ物は届けたるの」、冷蔵庫の中や炊飯器の中まで貰つてもらわなくてやあ。本人は元気だから出でこないが、」「将来の介護については、施設へ附つこし頼む」と語られた。

たまに会う家族の面では、しっかりした母ととの姿を見せてやさしく、地域住民の心配は家族にとってもうかるお説明

しきか感はないが、かも知れない。地域でのやり取りが少しよくなり始めた感じでは、ほとんど歩み寄れば問題ないだ。やさしさその人柄ゆえか、地域でのサポート体制が十分で良かった。ケアマネジャーとして、「こんな」介護したいとはねば。Aさんの認知症はゆっくり進行していくが住み慣れた家へのいたわりもあったため、サービスや介護のサポートがあれば、在宅で生活できる。家族は離れて生活し勤めもあるため、医療福祉の中でも家族が直面のサポートに感謝し、補う自分でやさしいお世話をうなづいていくを認じ得れば理想的だ

和やかにやるよりの働きかけでいい」と、家族の意識を喚起させた。「これが」も導えた。ケアマネジャーの役割は、利用者を取り巻く立場の様々な人々の思いを一つにする機会をつくることだからである。

担当者会議の後、地域の方からは施設の声も聞かれたが、かかってきただ電話も少なくなり、見ゆるべく内容に線が引かれたのはと思う。

ケアマネジャーとして専門家として、自分の親たつたりの感覚をも、どうも家庭や利用者の立場に立った目線と、専門職として向き合ったすべき役割を認識し、相手や自分の感情に振り回されずやるべきことをやる」との大切さを学んだ。

（）家族の立場を理解しなければ、 家族との連携は無理

しかし家族の思つぱくないねじこながつた。施設といひいが、母親の不自由と思われる日常生活を會議に出す事は、母親を近所の人にもつづくように思えた。又、Aさんの病気を認めたしない感じもつかがえた。「うなづかます家族の思いを汲み、専門家の立場から認知症の進行の現状を客観的に伝え、それ